

喜多方市過疎地域持続的発展計画（案）に関する意見と市の考え方について

意見提出件数 10件（3名）

※いただいたご意見につきましては、趣旨を損なわない範囲で要約させていただいております。

No.	意見要旨	市の考え方
1	<p>人口減少を少しでも抑制するには、移住定住促進、地域おこし協力隊の活用があげられるが、具体的な事業計画が明示されていない。</p> <p>1) 市内にある空き家は市自らが「空き家活用促進事業」を活用して、リフォームして移住希望者に賃貸すること。</p> <p>2) 移住者や地域おこし協力隊およびそのOBOG定住者の移住後のケア・相談を担当する専任の担当員を市役所に設置すること。</p> <p>3) 1と2の実施にあたっては、高知県梶原（ゆすはら）町を参考にすること。</p>	<p>本計画は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、過疎地域の持続的発展のための方針等の基本的な事項を定めるものです。</p> <p>このため、計画書中に実施する事業を具体的に記載するものではなく、「(2) その対策」に記載している基本的な施策の内容を踏まえて様々な事業を実施していくこととなります。</p> <p>人口減少抑制のための移住・定住の促進、地域おこし協力隊の活用については重要であると考えており、ご意見につきましては今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>地域おこし協力隊を現在の9名から倍の18名に増員して、移住促進の起爆剤にすること。</p> <p>1) 大分県竹田市を参考にすること。</p> <p>2) 地域おこし協力隊OBOGが定住できるようにケア・相談を担当する専任の担当員を市役所に設置すること。</p>	
3	<p>熱塩加納町には全国一といわれた学校給食がある。まさに地域の「宝」であるが市内にまったく広がっていない。</p> <p>1) 熱塩加納の学校給食で使っている調味料を市内の全調理場で使うこと。</p> <p>2) 千葉県いすみ市を参考に、まずはお米を全量有機米に転換すること。有機米の供給は市内の有機農業者に協力を依頼すること。</p> <p>3) 熱塩加納の学校給食を市内全域に広げるには、有機学校給食の先進事例で</p>	<p>地元農産物の利用割合が高い学校給食については、市の学校給食全体において喜多方市産農産物の利活用推進を図る取組を実施しているところであり、ご意見につきましては、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>

	<p>ある愛媛県今治市において有機学校給食と条例制定に尽力された方にアドバイザーをお願いし、全市レベルにおける野菜や加工品などを生産・保存・給食への提供ノウハウを教授してもらうこと。</p>	
4	<p>地産地消は言葉としてすっかり定着したが、現実には市民の多くは大手量販店、全国チェーン店、コンビニ、ネットショッピングで買い物をしている。そうすると、せっかく市民が稼いだお金が地域から大都市に吸い取られていく。これを「漏れバケツ」という。地域が経済的に回復するには地産地消をさらに進めることが欠かせないが、この計画ではまったく触れていない。</p> <p>1) アドバイザーをお願いして、地産地消を進めるための総合政策を策定すること。</p> <p>2) 市長、議員、担当職員は参考文献を熟読すること。</p> <p>3) 現在、月1回開催している「おはようマルシェ」を毎週開催とすること。</p> <p>4) 地域で小さな起業を希望する市民に対して財政、ノウハウなどにおいて支援を強化すること。</p>	<p>地産地消による地域内での経済循環については重要であると考えており、農業における6次産業化の取り組み等に加え、各分野における様々な施策を実施しているところであり、ご意見につきましては、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>農業はあいかわらずのアスパラなどの単品目と農地集積の一辺倒であるが、それで山間地で誰が耕作を続けるのか？林業も具体的な担い手が想定されていない。山間地では、1つのことではなく様々なことを担う「半農半X」、「半林業半x」を定住の仕組みとして位置づけることで、山間地に定住する担い手を増やすこと。少しでも多くの人に住み続けることが獣害対策にもつながる。</p> <p>1) 山間地の農業については、市内で実</p>	<p>山間地での農林業の担い手確保については重要であると考えており、各分野の施策を実施しているところですが、ご意見につきましては、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>

	<p>践している農業者の意見を丹念に聞くこと</p> <p>2) 山間地にすんでいる人自らが伐採と林道の維持管理を行う自伐林業を市の計画に位置づけること。そのためのアドバイザーをお願いすること。</p>	
6	<p>・小規模多機能自治の導入</p> <p>過疎地域での持続的な発展を推進するには、その地域の集落コミュニティの維持や強化を多角的に視点で支援することが絶対必要条件である。特に喜多方市は中山間地域、山間地域を多く抱えており、連続と続いてきたこれらのコミュニティをいかに支援していくかを第一とすべきである。</p> <p>農林業においては、条件不利地であるこうした地域では、収入に直結しない作業が平地地よりも圧倒的に多く、その結果離農に拍車をかけている。しかしこうした作業（たとえば棚田や水路の維持、農道林道の管理など）は農業の多面的機能発揮には重要であり、こうした作業に対して、公的な意味を見出し日当を支払うべきと考える。現在実施されている日本型直接支払では農業者に限定され、まだ不十分であると考ええる。</p> <p>そこで集落の生活インフラの管理やイベント等に係る人件費や維持費について、より自由に集落住民の意思で使えるように、予算権を市から譲渡し、小さな自治組織を各地に設立する。その自治範囲は旧小学校単位とし、老若男女が身近で参加しやすい規模とすべきである。</p> <p>また少子化による学校の統廃合については、こうした自治組織との連携も考慮すべきである</p> <p>こうした多機能自治組織設立のために、</p>	<p>地域コミュニティの維持活性化については、重要であると考えており、協働の意識の醸成とともに、各種支援施策を実施しているところです。</p> <p>令和2年度からは、モデル事業として地域の課題解決に向けた広域的な住民組織に対する支援に着手したところであり、今後それらの検証を踏まえ、地域コミュニティのあり方について検討して参ります。</p>

	<p>地域おこし協力隊の制度を積極的に利用すべきと考える。</p>	
7	<p>・有機農業の町、アグロエコロジーの町宣言を</p> <p>人口減少と高齢化率上昇に歯止めをかける方法の一つとして、地域外からの移住者受入れが必要である。また喜多方市で育った子弟たちがそのまま、あるいは再び市内に戻ることも重要である。そのためには、喜多方市がもともと持つ豊富な地域資源を磨き、他地域よりも輝かせなければならない。</p> <p>これからの時代、安全な食の確保は貴重な地域資源となる。清らかな水、豊かな田園を持つ喜多方市はそれを実現する絶好の場所であり、まだ全国ではほとんどの地域が取り組んでいない、有機農業の町、アグロエコロジーの町づくりは移住希望者や近隣自治体住民にとって大きな魅力となる。農地の集約による大規模化が難しい地域においては、有機農業、アグロエコロジーは地域活性化のカギとなる。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や子ども園、保育所の給食の食材を有機農産物（あるいはそれに相当する農産物）の使用率を上げる。まずは米飯は全て市産の有機米に切り替える。 ・体験型の食育を充実させる。 ・有機農業を軸にした食品加工業、飲食業の支援 ・農地や道路などに除草剤の使用縮小を促す（景観の維持、田園風景の維持は観光的にもプラスになる） ・農福連携の推進。 ・官公施設のバイオマスエネルギーの積極的な導入 	<p>有機農業の推進については、SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、化学肥料・化学合成農薬の使用を低減する取組の中で推進しております。</p> <p>ご意見につきましては、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>

8	<p>産業の振興、現状と問題点「環境にやさしい農業の更なる推進」とあります。</p> <p>その他にも自然環境に配慮しながらという文言もありますが、有機農業という単語がありません。</p> <p>有機農業は農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業です。</p> <p>具体的な対策として有機農業という言葉を使用し、有機農業拡大を提示していただきたいです。</p>	<p>本計画は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、過疎地域の持続的発展のための方針等の基本的な事項を定めるものです。</p> <p>このため、計画書中に実施する事業を具体的に記載するものではなく、「(2) その対策」に記載している基本的な施策の内容を踏まえて様々な事業を実施していくことになります。</p> <p>有機農業の推進については、SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、化学肥料・化学合成農薬の使用を低減する取組の中で推進しております。</p> <p>市では、有機農業の拡大に向け、農業部門における最上位計画となる喜多方市農林業ビジョンにおいて数値目標に掲げ、各種取組を進めることとしております。</p> <p>また、喜多方市教育振興基本計画の重点事業実施計画においては、「学校給食における地場農産物の活用推進」を掲げ事業を推進しております。</p> <p>ご意見につきましては今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>有機の里喜多方市をスローガンに、食の安全・安心をより一層推進していただきたいです。</p> <p>健やかな子どもの発育・発達のために学校給食に使用する食材には農薬不使用の割合を増やすなどを掲げていただきたいです。</p> <p>市の方向性が定まることにより、慣行農業の方からも有機農業や自然環境等への理解が促されるような仕組みを作っていけると期待しています。</p>	<p>市では、有機農業の拡大に向け、農業部門における最上位計画となる喜多方市農林業ビジョンにおいて数値目標に掲げ、各種取組を進めることとしております。</p> <p>また、喜多方市教育振興基本計画の重点事業実施計画においては、「学校給食における地場農産物の活用推進」を掲げ事業を推進しております。</p> <p>ご意見につきましては今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>「…食育、学校給食の充実が必要です。」との文言があり、具体的な計画作成の際には熱塩加納方式の給食を市全域に広める内容を追加していただきたいです。</p> <p>千葉県いすみ市ではすでに有機農業と学校給食の連携が実践され、先行事例として多方面に取り上げられています。</p> <p>全量有機米に転換することなど、喜多方市内でも可能な範囲と思います。</p>	<p>本計画は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、過疎地域の持続的発展のための方針等の基本的な事項を定めるものです。</p> <p>このため、計画書中に実施する事業を具体的に記載するものではなく、「(2) その対策」に記載している基本的な施策の内容を踏まえて様々な事業を実施していくことになります。</p> <p>有機農業の推進については、SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、化学肥料・化学合成農薬の使用を低減する取組の中で推進しております。</p> <p>市では、有機農業の拡大に向け、農業部門における最上位計画となる喜多方市農林業ビジョンにおいて数値目標に掲げ、各種取組を進めることとしております。</p> <p>また、喜多方市教育振興基本計画の重点事業実施計画においては、「学校給食における地場農産物の活用推進」を掲げ事業を推進しております。</p> <p>ご意見につきましては今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>